

愛のゲーム理論研究

桃井富範

1. 始めに

私は[修士論文](#)にて超越概念論の研究を行っていて、その際バタイユではないが、「突然信仰を失った」ような思想的危機に見舞われた。 というのも、絶対的真理や概念が世の中には有用だから存在しているのだけれども、それは飽くまでも概念だという点が明らかになってしまった故である。

その際の私の悩みに解決の糸口を与えてくれたのがゲーム理論であり、絶対的真理から相対的真理へのコペルニクス的転回を行った。現在ゲーム理論はポストモダンの1つの象徴と言っても過言ではない。

人間は狂った猿であると言い過ぎかもしれないが、動物として、そして霊長類、人間へと進化していく中で社会的秩序を手に入れるために超越的概念を編み出した人間だが、やはり子孫の存続がその存在目的の重要な共通項であるのは間違い無かろう。

その中で文学というテキストは愛のゲーム（つまりは1人だけではなすすべの無いゲーム）の教科書だったのだと気付いたのだった。

文学研究を続ける中で新たなる、そして普遍的な応用力を持つ文学理論を確立するというのが、私の1つの目標である。

Belknap氏のカラマーゾフ兄弟研究の結論¹で、主人公の行動選択の理論が文学理論としての可能性として提示されている。私はそれゆえに当初社会的選択理論からの新たなる文学批評理論の確立を目指したが、選択理論を文学に当て嵌めると、余りにも選択肢が存在し、批評として確立するのを断念した経緯が存在する。

そんな最中、修士論文にて用いた[進化ゲーム理論](#)研究が私の1つの光明となった。

進化ゲーム理論からの分析であれば、ゲームに参加する人間の戦略を特定し、分類して分析を行う。さらに、『カラマーゾフの兄弟』に限定せず、文学作品を時系列（時代毎）あるいは文化毎（つまりは地域、国家毎）に分析すると、男女戦略の発展や相違の分析を行い得る。

2. 進化ゲーム理論の文学理論への応用

文学理論に於ける進化ゲーム理論の適応のためには、まずは分析様式を確立する必要がある。今回私は進化ゲーム理論分析の為にマトリックスを作成し、4つの分析方法を定義づけた。

このマトリックスのX軸には資源に対する欲求を、Y軸には所有の欲求を当て嵌めた。

X軸資源に対する欲求とは、資源そのものに対する興味欲求を示す。

Y軸所有の欲求は、興味欲求を持つその資源を保持所有し続けたいと言う欲求を示す。

¹ Robert L. Belknap. The Genesis of the Brothers Karamazov (Evanston:Northwestern University Press Studies of The Harriman Institute, 1990).

今回の分類は所有の欲求の多寡、資源の欲求の多寡により4つに分類を行った。すなわち、資源に対する欲求も所有に対する欲求も多い戦略（タカ派戦略）、資源に対する欲求は多いが、所有の欲求は少ない戦略（ハト派戦略）、資源に対する欲求は少ないが所有の欲求は多い戦略の4つである。

今回の私のマトリックスの画期性は、一人の人間が所有の欲求と資源に対する欲求と言う2つの欲求の座標によって複数の戦略（今回複合戦略と名付けている）を行いうると明示した点である。

今までの進化ゲーム理論は、まずは人間を対象にしていなかった為、1つの種族や動物が取りうる戦略が1つだった故に分析に奥行きが存在しないと言うのが弱点だった。

今回の分析手法はその弱点を補う。

さらに、今迄の分析ではオスからの分析がほとんどだったが、これを単なる欲求の対象（すなわち資源）としてのみ捉えられてきた女性の戦略も十分考慮に入れて分析を行う。

4つの分類戦略は少ないように思われるが、2人のゲーム、1人の男性と1人の女性というゲームにて考えるならば、 $4 \times 4 = 16$ 通り、更に時間やシチュエーションにてお互いの戦略が変動するから実際はさらに多い戦略がとられる。

さらにそれを3人ゲームとすると（男性2人と女性1人或いは男性1人と女性2人）、戦略は $4 \times 4 \times 4 = 64$ 通り、さらに時間やシチュエーションにてお互いの戦略が変動する。

4人ゲームであれば、（男性2人と女性2人）、戦略は $4 \times 4 \times 4 \times 4 = 128$ 通り、さらに時間やシチュエーションにてお互いの戦略が変動する。

これを自然界にて個々に分析しようとする、その戦略数の無限に絶望を感じざるを得ない。さらに、人間と言う種を研究しようとする、そこにプライバシーの問題が登場する為、危険ですらある。

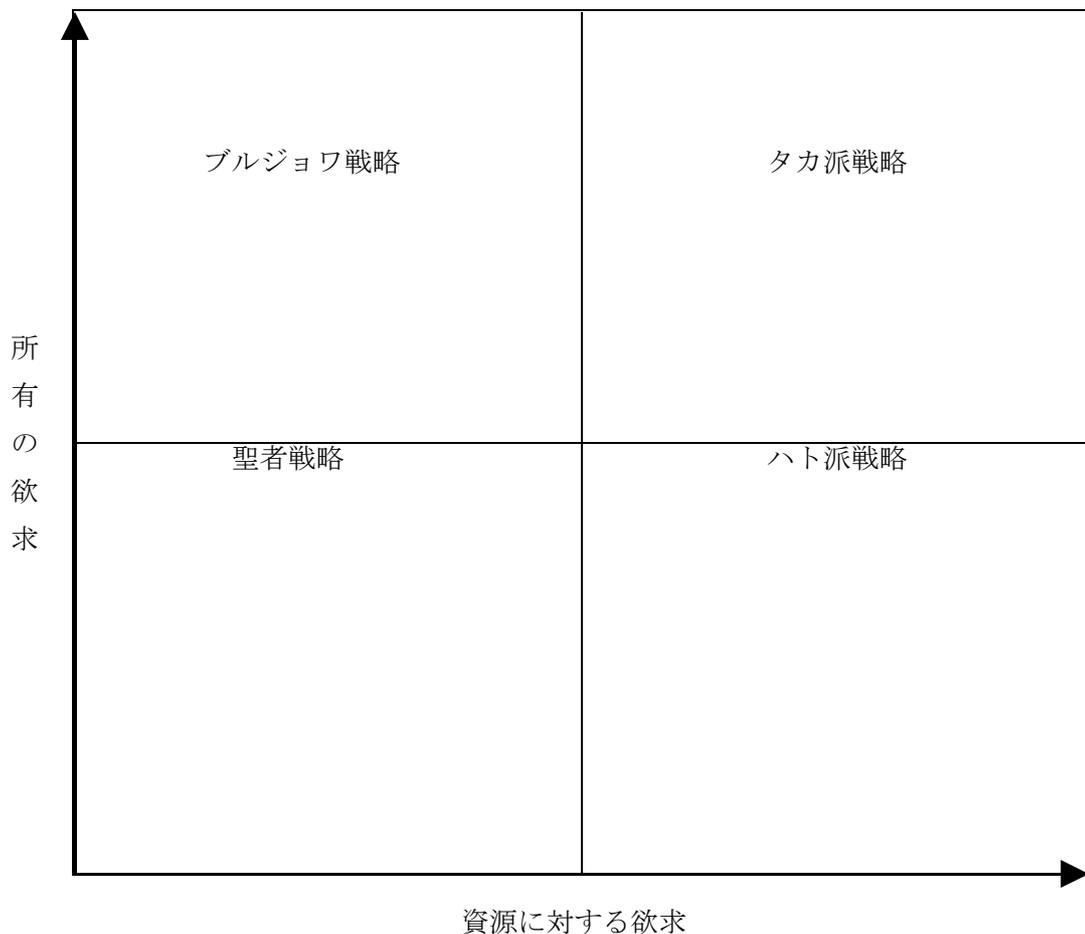
今回私は文学研究による進化ゲーム理論分析が有用であり、且つ最も効果的であると確信しているが、それは第一に文学テキストでは既にそちらの相互戦略が半永久的な形で保存されていて、且つ分析に際してプライバシーの問題が発生しない、あるいは発生しづらいという点が挙げられる。

ただ、今回の分析の際注意しなければならないのは、文学テキストを現実と混同する危険性である。その文学テキストが例えノンフィクションの史実に忠実に基づいたテキストとしても、そこには作者の意図、あるいは無意識の意図が働き、現実との差異が必然的に発生する故である。ゆえに、今回行っていく戦略分析を完全且つ現実と勘違いして現実に応用しようとする、手痛いしっぺ返しを食らう可能性が高いと予め警告しておく。

だが、同時に人生を有意義に生きるための参考文献としては間違いなく有用と確信している。

それではまずは、タカ、ハト、ブルジョワ、聖人戦略の4つの戦略分析を個々に行う。

図1、進化ゲームの4戦略（桃井富範作成）



2-1. タカ派戦略

『鷹の持つ雰囲気や習性などを、政治的傾向の分類に用いたもの。必ずしも明確な基準はないが、一般的には外交・軍事・安全保障政策などについて対外強硬主義や軍事解決の考えを持ち、そういった政策を支持している人々をタカ派とよぶ。

かつては、「鷹＝武力による解決」「鳩＝対話による解決」と説明されることが多かったが、現代日本では武力を実際に用いることが少ないため、単に強硬姿勢や他国を挑発する姿勢をタカ派とする事が多い。』と wikipedia の語義に記載が存在するが、タカ派とは元来がゲーム理論の用語である。

有名なのが、J. メイナード＝スミスのタカ・ハトゲームであり、タカ派戦略は「傷つくか相手が逃げ出すまで戦いを挑み続ける」²との記述がある。

タカ派戦略は wikipedia に記載されているような武装(軍隊等)による攻撃と略奪であり、進化ゲームに的を絞って論ずるならば、資源として欲する異性を無理やり犯す行為(強姦)

²J. メイナード＝スミス著、寺本英、梯正之訳、『進化とゲーム理論—闘争の論理』、産業図書株式会社、昭和60年、P 13

や資源(欲する異性)を決闘にて奪い合う行為等が存在する。

2-2. ハト派戦略

「ハト派(およびタカ派)には、必ずしも明確な基準はないが、一般的には外交・安全保障政策などについて穏健な考えを持ち、そういった政策を支持している人々をハト派とよぶ。かつては、鷹=武力による解決、鳩=対話による解決、と説明されることが多かったが、現代では武力を用いることが少ないため、単に比較的「穏健」「慎重」と思われる姿勢を「ハト」と称することが多い。」と wikipedia の語義に記載が存在するが、ハト派という用語はタカ派と同様に元来がゲーム理論の用語である。

この用語も J. メイナード=スミス のタカ・ハトゲームに起源を発して、ハト派戦略は「まず誇示する。相手が戦いを挑めばただちに逃げ出す。」³との記述がある。

つまり、資源に対する欲求は強いが、それを所有しようとする欲求は低い戦略である。タカ派戦略は資源に対する欲求も所有の欲求も強く、闘争という手段によって資源を手に入れようとするが、ハト派戦略はグループに属し、そのグループ内の同意をもとに資源を手に入れようとするのが基本戦略であろう。

2-3. ブルジョワ戦略

J. メイナード=スミスによると、ブルジョワ戦略とは「所有者であればタカのように、侵入者であればハトのように振舞うものである」⁴と記述があるが、これは単純モデルの作成の際に用いた概念であるので、今回の分析には一概に当て嵌まるとは言えない。

説明すると、ブルジョワ戦略とは資源に対して関心を示さないが、その資源を得ようとする人間から利益を入手し、所有を増やす(所有に対する欲求は強いのである)。そして自らの所有を得ようとする人間を資源とする戦略である。

ブルジョワ戦略をとるのは人間だけであろう。そういう点では高度な戦略とも言える。

ブルジョワ戦略を実行する具体例を挙げるとするならば、金貸しや投資であろう。金貸しは金銭を他者に貸すと言う行為を行う。当然他者に貸すので、金貸しはその金銭を自由に使用することが出来ない。だが、その金銭はそれでも自分の金銭であることには変化がない。そして、その金銭を借りた人間は、その金銭を借りた人間に対してその利息を支払うために、金貸しはその所有を増やす。金貸しは更にその所有を他者に貸し、自らの所有を増やしていくのである。ゆえに金を借りる人間は金貸しにとっては資源なのである。ちなみに投資も金を貸す行為と本質的には同じ行為である。

2-4. 聖者戦略

聖者戦略は異性に対する戦略を諦める代償として、それを狙う同性が取らざるを得ない戦略を回避し、利益を手にする。資源に対しても所有に対しても関心を示さない代償として手に入るのは、それ以外の地位、名誉等である。

聖者戦略も人間のみが取りうる高等戦略と言ってよいであろう。

³J. メイナード=スミス、『進化とゲーム理論—闘争の論理』、P 13

⁴J. メイナード=スミス、『進化とゲーム理論—闘争の論理』、P 25

聖者戦略を行うグループとしては宗教集団、ボランティアグループなどが挙げられる。

2-5. 混合戦略

先述したとおり、今回の私の論文の画期性は1人の人間が複数の戦略を採択しようという点を明記した点にある。これを『混合戦略』と定義づけるとしよう。

そして、さらに『混合戦略』を2つに区分する。まず1つめは『グループ内混合戦略』である。これは、4つの戦略集団のうち、特定の1つの集団に属しているながら、その集団内で異なる戦略を採択する戦略の区分である。

もう1つは戦略そのものを変更してしまうという戦略である。これを『戦略変更混合戦略』と名づけるとしよう。

グループ内混合戦略

まずはグループ内混合戦略を分析する。これは、ある特定の戦略を実行し続けるグループに所属していると前提した上で、そのグループ内に於ける行動戦略を分析する手法である。

タカ派戦略グループ、ハト派戦略グループ、ブルジョワ戦略グループ、聖人戦略グループの4つの戦略グループと、そのグループ内のタカ派戦略、ハト派戦略、ブルジョワ戦略、聖人戦略の4つの戦略を掛け合わせて、16通りのグループ内混合戦略を概観する。様々な分析を行いながら、改訂・補筆を続けていく予定。

①タカ派戦略グループ内戦略

タカ派戦略グループとはすなわち、武力による攻撃的資源取得を容認するグループ、あるいは攻撃的資源取得を実行するグループである。

タカ派戦略グループ内タカ派戦略

こちらのグループを定義する用語は現時点では存在しないようだ。過激派の用語は存在するが、それは同一グループ内のタカ派を定義する用語で、タカ派戦略グループ内のタカ派を定義する用語ではない。軍事等をつかさどるグループに所属し、且つ戦争行為を肯定するあるいは実行するグループ、あるいは行為をタカ派グループ内タカ派戦略と定義付ける。

タカ派戦略グループ内ハト派戦略

(タカ派チキン)

日本では認知度が低いですが、英語圏に、タカ派戦略グループ内ハト派戦略をさす用語が存在する。それは、chicken hawk (チキンホークあるいはタカ派チキン) という言葉である。この言葉の語源は、政治の俗語では臆病を表すチキン (鶏) とタカ派を表すホーク (鷹) を合わせたもので「臆病な強硬派」を意味する。定義としては、タカ派チキン (チキン・ホーク、chicken hawk あるいは chicken-hawk) は米国で用いられる政治の俗語で戦争など軍事活動に大いに賛成しているが従軍して戦地に赴いたことがない政治家、官僚、評論家等をいう。チキンとは俗語で臆病をいい、タカ派の主張をしているが実は自分は戦地に行きたくない腰抜け野郎という揶揄的な意味で用いられる。かつては親のコネや免除制度

を悪用して徴兵や出征（特にベトナム戦争）を避けることを言ったが、現在はもっぱらイラク戦争の熱烈な賛成派だが現地に行ったことがない者を指す。⁵

つまりは、武力で資源を入手するという手段を擁護・賛成する、あるいはその集団に属している（タカ派戦略グループに所属している）にも関わらず、自らは一切そのような行為を実行しない（ハト派戦略を実行している）人物や行動をタカ派チキンと定義している。

これは、具体例を挙げると、wikipediaの記述に存在するように、熱心な戦争支持者でありながら、自ら戦地に赴こうとはしない。暴走族に所属しながら、一切暴力行為は行わない等の例が挙げられる。身近且つ典型的な例で言うと、日本の漫画、ドラえもんに登場する[骨川スネ夫](#)が挙げられるだろう。スネ夫はジャイアンと共にのび太を苛めるグループに所属し（タカ派戦略）、のび太いじめを肯定していながら、直接にはのび太には攻撃を加えていない。

最近社会問題の主要なテーマの一つとなりつつある『いじめ』の背景にはこのような、イジメや攻撃を容認、賛成していながら、直接的には『いじめ』や攻撃行為を行わないタカ派チキンの存在が重要な役割を占めていると推測される。

タカ派戦略グループ内ブルジョワ戦略

タカ派戦略グループ内にて、ブルジョワ戦略を容認する、あるいは実行するグループ、或いは戦略を意味する。

具体的な例としては[死の商人](#)がある。

タカ派戦略グループ内聖者戦略

タカ派、すなわち武力による攻撃的資源取得を容認するグループ、あるいは攻撃的資源取得を実行するグループに所属しながら聖人戦略を実行する混合戦略。

特攻隊

タカ派戦略グループ内聖人戦略を表現する用語は現在存在しないようであるが、例を挙げるとするならば[特攻隊](#)を挙げられるだろう。

一般に武力行動を行うグループは、負傷や死、様々な資源の損壊、濫費等のリスクを背負いながらも、自らが所有する資源を防衛し、敵対者（グループ、国家）を攻撃して資源を奪取するのが狙いのはずであるが、自己は生還し、利益を入手する為に行動を行うと言う点は前提のはずである。

しかしながら、タカ派戦略グループ内聖人戦略においては自らが死ぬ、あるいは負けると自覚していながら自らの利得を省みずに戦闘行動を行うという点で特異である。

ただ、やはり武力行動を行うので、その攻撃目的は敵対者（グループ、国家）を攻撃し、損害を与えるという点に変化はない。

ちなみに、特攻隊のケースでは、特攻隊員の利得は[特進](#)と呼ばれるステータスシンボルのみであるが、その背後には遺族の恩給などの制度がある。

⁵ インターネット百科事典 wikipedia より

自爆テロ

Suicide bombing という英語を日本語に翻訳した用語であり、「犯人自身も死亡する事を前提とした殺人・破壊活動などのテロ犯罪である。技術やコストがかからず目標まで誘導して攻撃できることから『貧者のスマート爆弾』とも言われる。』⁶と定義付けられている。

こちらにも、本質としては特攻隊と同様の行為であろう。

ちなみに、自爆テロ戦術が浸透する条件としては

1. おもに宗教的指導者が率いる私軍やゲリラ組織で
2. 自軍の装備戦力が決定的に劣っていること
3. 住民が本国政府または外国の軍隊の強い抑圧下にあつて自爆テロ志願者を徴募しやすいこと。

等が挙げられている。

ちなみに、自爆テロは、同時にそれだけの士気を持った人間を喪失することになり、結果として少数派である組織、集団の質を加速度的に下げていく（これは自爆攻撃全般に言えることで、日本の特攻も結局特殊技能である航空機操縦者の不足に拍車をかける結果になっている）。この為、自爆テロを行っている集団はまず、主流になることは不可能であるとされている。

ちなみに特攻も含めた自爆テロの際に精神論や宗教論が蔓延し、意図的にタカ派戦略グループ内聖人戦略と聖人戦略内タカ派戦略との境界線がぼやけられるという現象が発生するという点は留意せねばなるまい。

②ハト派戦略グループ内戦略

ハト派戦略グループ内ハト派戦略

ハト派戦略グループ内タカ派戦略

ハト派戦略グループ内ブルジョワ戦略

ハト派戦略グループ内聖人戦略

③ブルジョワ派戦略グループ内戦略

ブルジョワ戦略グループ内タカ派戦略

ブルジョワ戦略グループ内ハト派戦略

ブルジョワ戦略グループ内ブルジョワ戦略

ブルジョワ戦略グループ内聖人戦略

④聖者戦略グループ内戦略

聖者戦略グループ内タカ派戦略

聖者戦略グループ内ハト派戦略

聖者戦略グループ内ブルジョワ戦略

聖者戦略グループ内聖者戦略

⁶ インターネット百科事典 wikipedia より

戦略変更混合戦略

2-6. 男性の戦略

2-7. 女性の戦略

3. 対人戦略

4. 世界文学の歴史を進化ゲーム理論から読み解く

5. 『カラマーゾフの兄弟』における進化ゲーム文学理論分析

5-1. フョードル=カラマーゾフの分析（ブルジョワ戦略）

5-2. ドミトリー=カラマーゾフの分析（タカ派戦略）

5-3. イワン=カラマーゾフの分析（ハト派戦略）

5-4. アレクセイ=カラマーゾフの分析（聖者戦略）

6. 用語・概念集

ここでは進化ゲーム理論による文学理論に使用しうるであろう用語や概念とその説明を掲載する。

7. 参考文献

佐伯胖、亀田達也編、『認知科学の探求—進化ゲームとその展開』、共立出版株式会社、2002年

J. メイナード=スミス著、寺本英、梯正之訳、『進化とゲーム理論—闘争の論理』、産業図書株式会社、昭和60年

Robert L. Belknap. *The Genesis of the Brothers Karamazov* (Evanston:Northwestern University Press Studies of The Harriman Institute, 1990).

W. ヴィックラー、W. ザイプト著、日高敏隆監修、福井康雄、中島康裕訳、『男と女—性の進化史—』、産業図書、1986年、

渡辺隆弘著、『図解雑学ゲーム理論』、ナツメ社、2004年、

カール・グラマー著、日高敏隆監修、今泉みね子訳、『愛の解剖学』、紀伊国屋書店、1997年、

掲載文章の著作権は桃井富範に帰属します。当サイトに使用している文章の無断使用、無断転載等のご遠慮下さい。Copyright (C) 桃井富範 All Rights Reserved.